

[見出し一覧](#) [トップページ](#)

河北春秋

親たちはおどおどしていた。不幸な子どもを産んだとわが身の不運を嘆いていた。その子の存在を隠したりした。一度も外に出たことがない子すらいた 1969年、そういう時代に菊池理子(みちこ)さんは石巻市に民家を借り、最重度の知的障がい児3人と暮らし始めた。大学卒業後、施設で2年間働いた経験しかない。理想の福祉を求めた、無謀とも思える試みだった

障がいのある子どもとの生活は筆舌に尽くし難い。食事も排泄(はいせつ)も自分ではできない。起床から寝つくまで、いつときも息をつけない。家族だってサジを投げたくなる。周囲は偏見で眺めるか、無関心を装った たった一人で始めた闘いは次第に共感を集めた。「子どもたちの幸せは大規模な施設にはない」。今のグループホームの先駆け。6年後、宮城県矢本町(現東松島市)に共生園をつくった

81年の「国際障害者年」、共生園を泊まり込みで取材した。口舌の徒には驚くことばかりだった。子どもたちの障がいの深刻さを見て驚き、その明るさ、純粹さを知ってまた驚いた。共に生きる 幸せを希求した理子さんの思いの深さもまた 理子さんが亡くなった。63歳。行政の考える社会福祉に一石を投げ続けた。理子さんが種をまき、育てた施設は16カ所に上る。「一粒の麦」の例え通りに。

2006年01月31日火曜日

[ホーム](#) | [新着情報](#) | [特集記事](#) | [会社案内](#) | [ランキング](#) | [サイトマップ](#)

河北新報社
〒980-8860 宮城県仙台市青葉区五橋1-2-28
本ページに掲載の記号・写真などの一切の無断転載を禁じます。

お問い合わせ、ご意見はこちらへ < [電話番号](#) > < [E-mail](#) >

Copyright (C) The Kahoku Shimpo